

[横浜美術館]

平成29年度業務報告及び収支決算

[公益財団法人横浜市芸術文化振興財団]

※文中の事業欄において、

●：主催事業 ○：共催事業
を示します。

※文中の達成指標欄において、

□：定量的指標 ■：定性的指標
を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜美術館
所在地	横浜市西区みなとみらい3丁目4番1号
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造8階建 一部3階建
敷地・延床面積	19,803 m ² ・26,829 m ²
開館日	平成元年11月3日

2 指定管理者

法人名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル1階
設立年月日	平成3年7月10日
指定期間	平成25年4月1日から平成35年3月31日まで

3 基本方針

(1) 基本的な方針の総括

展覧会については、入館者数はほぼ目標どおりとなり、石内展については、新聞の回顧で取り上げられるなど、美術関係者の注目を集めました。

また、海外発信としては、横浜トリエンナーレに付随して、IBA(International Biennale Association)理事会・総会を文化庁と共催し、横浜の文化を世界に発信しました。

展覧会巡回については、国内はH30の2件の巡回に向け準備しています。また、教育普及については、横浜トリエンナーレに照準をあわせて展開しました。展示コンセプトと同じコンセプトによる事業が多数展開されていると同時に、従来当館が実施してきた講座が横浜トリエンナーレと組み合わせることで新たな広がりがありました。特に、ボランティアトーカーは100名を超え、前回展を大きく上回る活躍をしました。

そして、大規模改修を含む中期Ⅲ期に向けて、コレクション撮影と公開、美術情報センター所蔵の映像資料デジタル化、子どものアトリエのプログラム見直し、ビジターサービス拡充、ファンドレイジングの見直しを計画的に進めています。

(2) 29年度の業務の方針及び達成目標の総括

①「経営」の総括

◇横浜トリエンナーレ

- ・ヨコハマトリエンナーレ 2017 は、横浜美術館を主会場の一つとしてから 3 回目となり、今回は国際グループを中心にほぼすべての職員がヨコハマトリエンナーレ 2017 に携わりました。これらの経験を踏まえ、国際展の企画運営の課題を H30 に開催するシンポジウムなどを通じて広く検証します。
- ・H26 に正式発足した当時より館長の逢坂が理事を務めてきた IBA(International Biennale Association) 理事会・総会を、ヨコハマトリエンナーレ 2017 会期中に文化庁と共催しました。約 20 名の世界各国の国際展関係者に対し、理事会・総会に加え、関係者ワークショップ、公開セミナー、近隣文化施設ツアーを提供することで、横浜トリエンナーレだけでなく日本の現代美術の状況を世界に発信しました。

◇海外への発信

- ・海外巡回については、H30 巡回にむけて準備を行ってきましたが、中期Ⅲ期に実施検討したいと考えています。この 5 年間、海外巡回を想定した企画展を構想し、企画展の巡回勧誘を海外出張時に各学芸員が行い、コレクション展の勧誘を IEO 大会(International Exhibitions Organizers Conference)で国際グループが行うなどしてきました。その経験を鑑み、一層戦略的な企画や勧誘なしには海外巡回は実現しないと考えています。しかし、通常の展覧会と横浜トリエンナーレを企画運営しつつ、海外巡回を戦略的に実施することは、現体制では難しいと考えています。今後、体制を調べて海外巡回を実施するかどうか、中期Ⅲ期に検討します。
- ・海外インターンについては、国際グループで 1 名受入れ、今後は、従来よりも継続的・組織的な人的交流となる枠組みを、H30 に向けて構築します。

◇広報

- ・ぐるっとパスの新規加入、ファッション展およびトリエンナーレの日曜美術館での放映等、首都圏・横浜向けに重点をおいた展覧会毎の広報を展開しています。

◇外部との連携

- ・当館の専門性を活かし、横浜市、財団内施設、文化組織、企業等との連携による事業を実施し、当館の活動を広げています。特に「高円宮妃殿下写真展と現代根付コレクション」など横浜市の政策的な事業との連携には期中にも優先的に対応し、横浜の文化振興と発信を支えています。

② 事業の総括

◇企画展

- ・企画展合計の目標 20 万人に対し、実績は 201,276 人 (100.6%) と、計画通りに進捗しました。
- ・ファッション展は、ファッションの研究財団との共催、当館初の本格的なファッション展、開港以降の東西交流に焦点をあてた横浜らしい展示などに開催意義があり、目標を上回る来場者数となりました。
- ・ヨコハマトリエンナーレ 2017 は、多国籍の多様な領域の専門家を交えた構想会議により孤立と接続性をコンセプトとし、そのコンセプトを、展覧会や様々な関連事業を通じて多層的に表現したことに特徴があります。このようなコンセプトを重視した展覧会は、地域振興に力点がある日本の国際展の中では希少な存在としてメディアからも注目を集め、来場者も目標を上回りました。
- ・横浜ゆかりの作家である石内展は、毎日新聞「写真」の回顧において作家ゆかりの横浜と桐生を結びつけた充実した展覧会として、多くのメディアに取り上げられ、美術ならび写真関係者から高い評価を得ました。来場者数については、会期中、大雪の日もあり、目標にはわずかに及びませんでした。
- ・若手作家支援(NAP)については、過去の経験を踏まえ、スケジュール、会場、サインに工夫を重ね、目標を超える

来場者にご来場いただくことができ、美術関係者をはじめとして、様々な方にご観覧いただきました。

◇コレクション

- ・コレクション展合計の目標 7.37 万人に対し、実績は 94,764 人（128.6%）と、計画を上回って進捗しました。
- ・コレクションによるパッケージ展の国内巡回については、H30 夏の 2 件の巡回に向けて準備しています。
- ・美術情報センターでは、ヨコハマトリエンナーレ 2017 の作品展示と関連展示（ヨコハマプログラム）があった影響で、利用人数が急増しました。
- ・そして、大規模改修が予定されている中期Ⅲ期の中に、コレクション撮影・公開準備等、美術情報センターの所蔵映像資料デジタル化を予定しており、9 月に実施事項、予算およびスケジュールを確定しました。

◇教育プログラム

- ・横浜トリエンナーレでは、ヨコハマスクリーニング、ヨコハマラウンド、ヨコハマサイト、ヨコハマプログラムといった、展示と同じコンセプトでの事業が多数展開されました。同時に、中高生が小学生の鑑賞を導く中高生プログラム、市民のアトリエでの鑑賞とワークショップの講座、子どものアトリエによる鑑賞講座など、従来当館が実施してきた講座がトリエンナーレで展開されました。
- ・また、障がい者向けのプログラムも、トリエンナーレに合わせて実施しました。個人向けには、視覚障がいのある人のための作品解説ツアー、視覚障がい者とつくる美術鑑賞ワークショップを行い、学校向けには、2 校のツアーを行いました。
- ・ボランティアによる鑑賞サポートもトリエンナーレの時期に集中的に提供しました。100 名を超えるトーカーが、団体向けの事前レクチャーを当館で、個人向けのトークを 3 会場で開催し、子どものアトリエのフリーゾーン参加者に計画的に鑑賞機会を提供するなど、前回展を大きく上回る活躍をしました。なお、外国人向けトークは、IBA までのスタートを目指して企画し、英語と中国語で行いました。
- ・子どものアトリエでは、中期Ⅲ期に向けて、学校のためのプログラムおよび個人講座の再編を試行しています。本年度は、非常に厳しい体制でしたが、学校プログラムを維持しつつ、研修を増やしました。この結果、学校のためのプログラムとバランスをとりながら、子どもとより長時間ふれあい影響を与えることができる教師や保育士に向けた専門性の高い研修を増加させ、より高い波及効果を得られたと考えています。そして、個人講座では、ファッションやダンスのアーティスト、神奈川芸術劇場(KAAT)と連携した 2 講座を実施しました。今後、このような美術館のアトリエとしての独自性を発揮することができる講座を増やしていきます。
- ・市民のアトリエでは、展覧会と連携し、美術館ならではの講座の強化を図っています。ファッション展では刺繍、横浜トリエンナーレでは、シュルレアリスム、写真、鉛筆画の講座を実施しました。このうち、写真と鉛筆画は横浜トリエンナーレ出品作家が講師を務めており、アーティスト連携も定着しはじめてきています。

◇市民協働・地域や市民に貢献する事業

- ・アウトリーチでは、従来の病院に加え、新たな病院と連携を開始しました。高齢者施設でのアウトリーチでは、実施回数を増やし、音など五感を刺激する内容に発展させています。また、従来より引き続き、市内の若者自立支援組織と連携し、アウトリーチと当館でのワークショップを実施しています。

③ 運営管理の総括

◇ビジターサービス

- ・昨年度に引き続き、委託会社契約に質向上に関する項目追加を継続し、顧客サービス員の質向上を図っています。
- ・首都圏や近隣就業者を狙った企画展毎の夜間開館の継続実施や、5 月には第 56 回国際粒子線治療共同グループ年次大会ガラ・ディナーなどのレセプション実施を通じ、多様な来館者にお越しいただけるよう工夫しています。
- ・横浜トリエンナーレ開始前に WiFi を拡充する等、館内でのお客様の利便性を高めると同時に、本年度もカフェイ

ルミネーション、お正月装花など、心地よい空間を作り上げるよう努めています。

◇適正な施設管理

- ・中期Ⅲ期の初年度の開館 30 周年事業については、9 月に財源確定、10 月体制・事業確定と計画的に進めています。

◇自主財源の獲得

- ・企業連携プログラム Heart to Art については、3 社と契約し、その他企画展毎に企業協賛の獲得に努め、5 社の支援をいただき、結果的に、昨年度より 1 社増となりました。このご支援を通じ、石内展オープニングを華やかに彩る等、多彩な活動をすることができました。
- ・そして、大規模改修が予定されている中期Ⅲ期に間に、初年度の 30 周年に向けた個人向け寄付のため、H29 に調査を行いました。今後は、H30 実施を進めると同時に、協力会との関係を活かした営業体制を検討していきます。

◇収支

- ・ファッション展及び石内都展の有料入場者数増等により収入増となりました。また、展覧会での会場施工等事業費の節減や光熱費の入札残などによる減を備品購入や修繕にあて、収支としては、1 千万円超の黒字となりました。

4 経営に関する計画

◇政策目標『横浜美術館は国際都市横浜の魅力を牽引します』

(1) 横浜トリエンナーレ [重点的な取組み]

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>主会場としての当館の特性を活かすと同時に運営組織の構築・基盤整備を行い、国際的ネットワークを構築しながら困難な状況下でも継続的に実施することで、当館の発信力を最大限に発揮するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜トリエンナーレへの全館体制での取組みを強化します。 ・新たに、新設する国際グループが中心となり、過去2回の横浜トリエンナーレの企画運営に関わった経験と、国内外の国際展に関する知見を基に、横浜トリエンナーレの国内外への発信力をより高める企画運営体制を市に提案し、推進します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨコハマトリエンナーレ2017は、横浜美術館を主会場の一つとしてから3回目となり、今回は国際グループを中心にほぼすべての職員がヨコハマトリエンナーレ2017に携わりました。これらの経験を踏まえ、国際展の企画運営の課題をH30に開催するシンポジウムなどを通じて広く検証します。 ・H26に正式発足した当時より館長の逢坂が理事を務めてきたIBA(International Biennale Association)理事会・総会を、ヨコハマトリエンナーレ2017会期中に文化庁と共催しました。約20名の世界各国の国際展関係者に対し、理事会・総会に加え、関係者ワークショップ、公開セミナー、近隣文化施設ツアーを提供することで、横浜トリエンナーレだけでなく日本の現代美術の状況を世界に発信しました。 		
<p>[取組内容]</p> <p>●ヨコハマトリエンナーレ 2017 実施</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■全館体制で取組み強化し実施</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】実施</p> <p>【追加実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/25-28 IBA(International Biennale Association)理事会・総会 ・9/26-27 CCNJ(Creative City Network of Japan)国際展部会

(2) 海外への発信 [重点的な取組み]

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>当館の発信力の強化に資する事業として、アジアの国々と重点的に連携するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質の高い展覧会を関係機関と協働して組織し、アジアをはじめ海外に巡回し、活動を強化します。 ・コレクションによるパッケージ展を立案し、他の美術館での開催を有料でオファーし、活動を強化します。 ・新たに新設する国際グループを中心に、全館体制で推進・強化します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <p>・海外巡回については、H30巡回にむけて準備を行ってきましたが、中期Ⅲ期に実施検討したいと考えています。この5年間、海外巡回を想定した企画展を構想し、企画展の巡回勧誘を海外出張時に各学芸員が行い、コレクション展の勧誘をIEO大会(International Exhibitions Organizers Conference)で国際グループが行うなどしてきました。その経験を鑑み、一層戦略的な企画や勧誘なしには海外巡回は実現しないと考えています。しかし、通常の展覧会と横浜トリエンナーレを企画運営しつつ、海外巡回を戦略的に実施することは、現体制では難しいと考えています。今後、体制を調べて海外巡回を実施するかどうか、中期Ⅲ期に検討します。</p>

・海外インターンについては、国際グループで1名受入れ、今後は、従来よりも継続的・組織的な人的交流となる枠組みを、H30に向けて構築します。

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
●コレクションパッケージ展 あるいは企画展の海外巡回	<input type="checkbox"/> H30 巡回にむけて準備	【達成】 中期Ⅲ期に実施検討 ・4/26-28IEO 大会(International Exhibitions Organizers Conference)で当館企画プレゼンテーション ・9月 中期Ⅲ期に実施検討を決定
●海外インターン受入	<input type="checkbox"/> 1回/年	【達成】 1回/年 ・4/1-12/26 1名受入れ
●日英での展覧会の会場パネル、カタログ作成	<input type="checkbox"/> 1回/展	【達成】 1回/展 ・会場パネルは冒頭パネルと章パネルを日英併記 ・カタログは概要、奥付、挨拶、作品リストを日英併記
●日英での紀要の発行	<input type="checkbox"/> 1回/年	【達成】 1回/年 ・3/31 発行(サマリーを日英併記)
●外国人団体向けボランティア・トーク	<input type="checkbox"/> 1回/年	【達成】 1回/年(再掲) ・鑑賞教育ボランティアによるトークで実施
●日英での展覧会プレスリリース作成	<input type="checkbox"/> 1回/展	【達成】 1回/展
●海外メディアへの展覧会プレスリリース送付	<input type="checkbox"/> 1回/展	【達成】 1回/展
●海外VIPへの展覧会招待状送付	<input type="checkbox"/> 1回/展	【達成】 1回/展
●海外来館者の把握	<input type="checkbox"/> 1回/年(H28.4以降継続実施)	【達成】 1回/年(H28.4以降継続実施)

(3) 広報

[目指す成果/アウトカム]

発信力の強化に資する事業として、事業および施設の広報を充実させるため、

- ・広報・連携体制の充実・強化：①個別の展覧会や事業ごとの宣伝と全館広報の両立、②市民やメディアとの信頼と関係強化、③館として発信するパンフレットや刊行物発刊、④ソーシャルメディアの効果的な運用方法の開発を実施し、活動を強化します。
- ・マーケティングの強化：認知度および顧客満足度調査などを試行的に実施し、コンセプト及びターゲットの明確化の推進を、引き続き実施します。
- ・新たに、首都圏に向けた広報に力を入れます。

[成果についての振り返り]

- ・ぐるっとパスの新規加入、ファッション展およびトリエンナーレの日曜美術館での放映等、首都圏・横浜向けに重

点をおいた展覧会毎の広報を展開しています。		
<p>[取組内容]</p> <p>●展覧会および全館広報などの通常業務</p> <p>●首都圏広報</p>	<p>[達成指標]</p> <p><input type="checkbox"/>露出件数 700 件/年</p> <p><input type="checkbox"/>ウェブサイトアクセス数 5,000,000 件/年</p> <p><input type="checkbox"/>メールマガジン登録数 500 人増/年</p> <p><input type="checkbox"/>Twitter フォロワー数 3,000 人増/年</p> <p><input type="checkbox"/>ウェブを活用した全館広報 1 回/年</p> <p><input type="checkbox"/>首都圏と横浜の各々に焦点をあてた広報 1 回/展</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】実施</p> <p>【達成】5,127 件/年</p> <p>【達成】6,625,162 件/年</p> <p>【達成】768 人増/年</p> <p>【達成】4,685 人増/年</p> <p>【達成】1 回/年</p> <p>・4/27 インスタグラマーイベント、6 月ウェブ公開</p> <p>【達成】1 回/展</p> <p>・ファッション：三菱一号館相互割引（首都圏）、三菱地所レジデンスチラシポスト（横浜）</p> <p>・ヨコトリ：シティリビング割引（首都圏）、タウンニュース割引（横浜）</p> <p>・石内：アートフェア東京 2018 割引（首都圏）、フォトヨコハマ 2018・CP+2018 割引（横浜）</p>

(4) 外部との連携

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>営業力の強化に資する事業として、都市型美術館の特色を打ち出すため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市戦略との連携：創造都市、シティセールス、観光プロモーションと連携した事業展開を引き続き実施します。 ・専門性を活かしたネットワークの強化：①社会課題や子どもへの取組みについて財団内連携、②美術家、事業者、NPO、ボランティア、大学等との連携を引き続き実施します。 ・新たに、美術館の特色を生かしたオリジナリティの高い事業とするため、より高い質を重視した事業展開を目指します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当館の専門性を活かし、横浜市、財団内施設、文化組織、企業等との連携による事業を実施し、当館の活動を広げています。特に「高円宮妃殿下写真展と現代根付コレクション」など横浜市の政策的な事業との連携には期中にも優先的に対応し、横浜の文化振興と発信を支えています。 		
<p>[取組内容]</p> <p>●専門館連携あるいは外部連携をしつつ、専門性を活かした横浜市推進事業との連携し、オリジナリティの高い事</p>	<p>[達成指標]</p> <p><input type="checkbox"/>2 回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】10 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3/25-6/25 写真パネル展 [大佛記念館連携] ・5/6ADB レセプション [横浜銀行連携]

業を実施		<ul style="list-style-type: none"> ・6/14 ファッション展コンサート[みなとみらいホール連携] ・6/16-18 イメージフォーラムフェスティバル[イメージフォーラム連携] ・1/6 クラシックヨコハマ「音遊びワークショップ」[市連携] ・2/23-3/4 フォトヨコハマ根付写真展[市連携] ・2/25「きくたびプロジェクト」体験&アウターセッション(1/15 15点公開)[ACY 連携] ・3/1CP+オープニング[市連携] ・3/2-4 東京藝術大学映像研究科アニメーション専攻第9期生修了制作展[大学連携] ・3/17 神奈川県ライトセンターワークショップ[神奈川県ライトセンター連携]
------	--	---

5 事業についての計画

◇政策目標『質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を拡げます』

(1) 企画展

[目指す成果／アウトカム]

発信力の強化に資する事業として、そして営業力の強化に資する事業として、展覧会基本方針等に立脚し、質の高い文化活動を実現するとともに、来館者の裾野を拡大するため、

- ・独創性、地域性、発信性、経営的な観点を踏まえて、バラエティに富んだ企画展をバランスよく開催することを、引き続き実施します。
- ・集客が期待でき、学芸的な知見・研究に基づく魅力的な企画案を積極的にマスメディアに提案し、共催することを引き続き実施します。
- ・コレクションをベースとした企画展の開催を引き続き実施します。

[成果についての振り返り]

- ・企画展合計の目標 20 万人に対し、実績は 201,276 人（100.6%）と、計画通りに進捗しました。
- ・ファッション展は、ファッションの研究財団との共催、当館初の本格的なファッション展、開港以降の東西交流に焦点をあてた横浜らしい展示などに開催意義があり、目標を上回る来場者数となりました。
- ・ヨコハマトリエナーレ 2017 は、多国籍の多様な領域の専門家を交えた構想会議により孤立と接続性をコンセプトとし、そのコンセプトを、展覧会や様々な関連事業を通じて多層的に表現したことに特徴があります。このようなコンセプトを重視した展覧会は、地域振興に力点がある日本の国際展の中では希少な存在としてメディアからも注目を集め、来場者も目標を上回りました。
- ・横浜ゆかりの作家である石内展は、毎日新聞「写真」の回顧において作家ゆかりの横浜と桐生を結びつけた充実し

た展覧会として、多くのメディアに取り上げられ、美術ならび写真関係者から高い評価を得ました。来場者数については、会期中、大雪の日もあり、目標にはわずかに及びませんでした。

[取組内容]	[達成指標]	
<p>●ファッションとアート 麗しき東西交流【会期：4月15日-6月25日・62日間】</p> <p>19世紀後半、横浜開港とともに始まった日本と西洋との文化交流が、人々の暮らしにどのような影響を与えたのか、服飾、装身具、工芸品、絵画、版画、写真などによって考察する。京都服飾文化研究財団との共同企画展。</p>	<p>□入場者数 45,000人(726人/日)</p>	<p>【達成】45,805人(739人/日)</p>
<p>●ヨコハマトリエンナーレ 2017 「島と星座とガラパゴス」【会期：8月4日-11月5日・88日間】</p> <p>3年に1度開催される現代アートの国際展の6回展。横浜美術館が主会場の1つになってから3回目の節目の回。横浜赤レンガ倉庫1号館を第2会場に9名の専門家による構想のもと企画された展覧会とパブリックプログラムを実施。</p>	<p>□入場者数 130,000人(1,478人/日)</p>	<p>【達成】131,112人(1,490人/日)</p>
<p>●石内都 肌理と写真【会期：12月9日-平成30年3月4日・69日間(計画時は68日間)】</p> <p>日本を代表する写真家の石内都(1947年生まれ)の個展。ライフワークともいえるヒロシマを始め、未発表の作品も含め、「残されしもの」をテーマに、石内の近年の活動を包括的に紹介する。</p>	<p>□入場者数 25,000人(368人/日)</p>	<p>【未達成】24,359人(353人/日)</p>

(2) New Artist Picks

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>有望な若手アーティストに作品発表の機会と場を提供し、創作活動を支援するため、継続的に取組み、広報を強化して、一定の入場者数を確保します。また、質の向上に取り組むと同時に、展覧会后5年間の作家の活動を把握し成果を確認することで、活動を強化します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手作家支援(NAP)については、過去の経験を踏まえ、スケジュール、会場、サインに工夫を重ね、目標を超える来場者にご来場いただくことができ、美術関係者をはじめとして、様々な方にご観覧いただきました。 		
<p>[取組内容]</p> <p>●New Artist Picks</p>	<p>[達成指標]</p> <p><input type="checkbox"/>開催 1回/年</p> <p><input type="checkbox"/>入場者数 1,500人</p> <p><input type="checkbox"/>展覧会后5年間の作家の活動を把握 1回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】1回/年</p> <p>・3/17-4/22 谷保玲奈展</p> <p>【達成】6,717人</p> <p>【達成】1回/年</p>

◇政策目標『魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します』

(1) コレクション

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>収集方針に基づき、作品の収集を提案し、横浜市民共有の財産として収蔵している優れたコレクションをさらに充実させ、市民の共有財産であるコレクションを適切に保管して次世代に継承し、コレクションを市民に還元し、美術館のプロモーションに貢献するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集：①市民に親しまれる作品、美術の新しい価値を創造する作品、横浜の美術の歴史を伝える作品収集提案、②現行の中期重点方針を見直し、現状に即した内容に改定して横浜市民に提案、3か年ごとの収集計画を策定して収集を促進、③横浜トリエンナーレの機会に話題性のある現代美術作品の収集提言を、引き続き実施します。 ・保存：①作品の安全な保存、②作品台帳および収蔵庫内の作品蔵置場所の整備を、引き続き実施します。 ・活用：①原則として年2～3回コレクション展開催（展示構成やテーマ展示などを工夫、人気の高い作品を展示する一方でなるべく多くを展示、特に新収蔵作品は迅速に展示公開、同時期に開催する企画展と連動したテーマ展示、展示方法や展示室の環境整備と情報提供を工夫）、②コレクションによるパッケージ展を立案し、他の美術館での開催を有料でオファーし、活動を強化します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コレクションの形成 <ul style="list-style-type: none"> 収集方針に基づいて、収集候補作品を提案しました。 ・コレクションの保存 <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵庫の状況について、現状の課題を市と共有し、新収蔵品のデータを登録して、目録として公開し、広く研究に貢献しました。 ・集中的な庫内清掃を学芸員が実施し、庫内環境の保全に努めました。 ・コレクションの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・コレクション展合計の目標7.37万人に対し、実績は94,764人（128.6%）と、計画を上回って進捗しました。 ・コレクションによるパッケージ展の国内巡回については、H30夏の2件の巡回に向けて準備しています。

・そして、大規模改修が予定されている中期Ⅲ期の間、コレクション撮影・公開準備等を予定しており、9月に実施事項、予算およびスケジュールを確定しました。

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●コレクションの形成、保存に関する通常業務</p> <p>●コレクションの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コレクション展 ・1期【会期：3月25日-6月25日・80日間】 企画展と緩やかに連動する特集展示や新収蔵作品の紹介などを行う。 ・2期【会期：12月9日-3月4日・69日間(計画時は68日間)】 企画展と緩やかに連動した特集展示や新収蔵作品の紹介などを行う ・コレクションパッケージ展 国内巡回 ・コレクションの画像と解説をウェブ公開 	<p>□入場者数 47,000人 (588人/日)</p> <p>□入場者数 26,700人 (393人/日)</p> <p>■H30巡回に向けて準備</p> <p>□10作品/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/11 内部検討委員会 ・12/13, 15 収集委員会 ・10/31 前年度目録発行 <p>【達成】59,616人 (745人/日)</p> <p>【達成】35,148人 (509人/日)</p> <p>【達成】実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30.6-9巡回に向けて準備 ・H30.7-9巡回に向けて準備 <p>【達成】10作品/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/22公開 <p>【追加実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ⅲ期に向けたコレクション撮影・公開準備等 9月 実施事項、予算およびスケジュール確定

(2) 美術情報センター

[目指す成果／アウトカム]

デジタル化の時代においてこそモノとしての「美術情報」の重要性と稀少性に着目し、専門的な見地にたつて、これらを収集・整理・保管し、様々な人の要望に対応し、適切かつ丁寧に提供することで、これまで蓄積してきた図書等の美術情報を発展的に継承し、公開して市民や研究者の利用に供するため、

- ・継続的な収集・整理・保管、市民、専門家、子どもなど様々な人の要望に対応し、適切かつ丁寧に提供することを、引き続き実施します。
- ・横浜トリエンナーレの実施にむけて、関連する美術情報を集積することを、引き続き実施します。

<p>・新たに、第Ⅲ期に向け、開かれた専門性をめざし、他事例の調査に基づいた具体的な取組みを検討します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <p>・美術情報センターでは、ヨコハマトリエンナーレ 2017 の作品展示と関連展示（ヨコハマプログラム）がある影響で、利用人数が急増しました。</p> <p>・そして、大規模改修が予定されている中期Ⅲ期に間に、美術情報センターの所蔵映像資料デジタル化を予定しており、9月に実施事項、予算およびスケジュールを確定しました。</p>		
<p>[取組内容]</p> <p>●収集、分類、保管、利用者提供などの通常業務</p> <p>●普及のための事業</p> <p>●第Ⅲ期に向け、開かれた専門性をめざした具体的な取組みを検討</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□利用者数 20,000 人/年</p> <p>□普及のための事業 5 回/年 □展覧会と連携した特別展 3 回/年</p> <p>□トークイベント 1 回/年</p> <p>□学生向け研修 1 回/年</p> <p>■Ⅲ期に向け以下を試行 ・所蔵映像資料デジタル化</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】 71,692 人/年</p> <p>【達成】 5 回/年</p> <p>・3/24-7/23 ファッション展連動企画特別資料展示</p> <p>・8/4-9/13, 9/15-11/5 横浜トリエンナーレ連動企画特別資料展示（ヨコハマプログラム）</p> <p>・11/23-3/20 石内展特別資料展示</p> <p>・10/7 横浜美術館・中央図書館連携事業に関連するヨコハマライブラリースクールでのトーク</p> <p>・5/20 鶴見大学「特別実習Ⅰ」ヨコトリ関連展示 横浜美術館現場ガイダンス</p> <p>【達成】 実施</p> <p>・9月 実施事項、予算およびスケジュール確定</p>

(3) 調査・研究

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>あらゆる美術館活動の基礎としての調査・研究を実施するため、成果は事業に反映すると同時に、紀要などにまとめて社会に還元し、活動を強化します。なお、専門性を広く市民のために役立てるため、専門的活動の効果的な開示を、海外も視野にいれて実施します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <p>・職位に応じて、事業および通常業務の遂行においてOJTを実施し、専門的知見とスキルの伝達および習得に取り組みました。</p> <p>・研究紀要では、紀要（サマリー）の日英併記を徹底し、一層の発信強化を実現しました。</p>		
<p>[取組内容]</p> <p>●紀要の発行（論文3本以上、日英併記、販売検討）[再掲：日英併記]</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□1 回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】 1 回/年</p> <p>・3/31 発行（論文3本、日英併記、販売は経費上実施できず）</p>

◇政策目標『美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝えます』

(1) 教育プログラム：鑑賞教育 [重点的な取組み]

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>教育プログラムの強化に資する事業として、鑑賞を深める機会を多くの方に提供することで、社会教育機関である美術館の重要な使命を果たすため、そして、幅広い世代の、様々な立場の、様々な属性を持つ人々に美術の価値を還元するという公立美術館の使命を果たすため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織新設し、鑑賞、創作体験、子ども対象を連動させた独自のエデュケーションプログラム始動し、活動を強化します。 ・①ワークショップ、鑑賞会などコレクション展鑑賞サポートのレギュラーサービス化、②学校連携による鑑賞プログラムを開発、③主にコレクション展のための鑑賞サポートツールの開発を行い、活動を強化します。 ・視覚障がい者むけ鑑賞サポートツール開発により、活動を強化します。 ・展覧会鑑賞パートナーによるコレクション展ギャラリートーク等の実施を通じて、活動を強化します。なお、第Ⅰ期の様々なプログラムの試行を踏まえ、第Ⅱ期には横浜美術館の特徴を活かしたオリジナリティある定番プログラムの確立を目指します。 ・新たに、質を保ちつつ、市民ならではの視点を活かした個性あふれるボランティア・トークについて、外国人向けなど種類を拡大します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜トリエンナーレでは、ヨコハマスクリーニング、ヨコハマラウンド、ヨコハマサイト、ヨコハマプログラムといった、展示と同じコンセプトでの事業が多数展開されました。同時に、中高生が小学生の鑑賞を導く中高生プログラム、市民のアトリエでの鑑賞とワークショップの講座、子どものアトリエによる鑑賞講座など、従来当館が実施してきた講座がトリエンナーレで展開されました。 ・また、障がい者向けのプログラムも、トリエンナーレに合わせて実施しました。個人向けには、視覚障がいのある人のための作品解説ツアー、視覚障がい者とつくる美術鑑賞ワークショップを行い、学校向けには、2校のツアーを行いました。 ・ボランティアによる鑑賞サポートもトリエンナーレの時期に集中的に提供しました。100名を超えるトーカーが、団体向けの事前レクチャーを当館で、個人向けのトークを3会場で提供し、子どものアトリエのフリーゾーン参加者に計画的に鑑賞機会を提供するなど、前回展を大きく上回る活躍をしました。なお、外国人向けトークは、IBAまでのスタートを目指して企画し、英語と中国語で行いました。 		
<p>[取組内容]</p> <p>●企画展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会 	<p>[達成指標]</p> <p>□2回/展</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】 2～8回/展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファッション：4/22 講演会, 5/27 シンポジウム ・横浜トリエンナーレ： <ul style="list-style-type: none"> 1/15, 3/25, 5/28, 8/4-5, 8/26, 9/18, 10/21, 11/3 ヨコハマラウンド1～8 ・石内：12/9 アーティスト対談, 1/13 アーティストトーク, 2/18 上映&トー

<ul style="list-style-type: none"> ・ギャラリートーク ・教師向け鑑賞ガイド(ウェブダウンロード) 	<p>□2回/展</p> <p>□1回/年</p>	<p>ク, 3/3 アーティストトーク</p> <p>【達成】 4~5回/展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファッション : 4/28, 5/12, 19, 26, 6/9 ・横浜トリエンナーレ : 8/19-20, 25 ヨコハマラウンド bis4回 ・石内 : 1/6, 19, 2/3, 16
<p>●コレクション展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館職員の専門性を活かした各種トーク 	<p>□8回/年</p>	<p>【達成】 1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファッション : 5/1 公開 <p>【追加実績】 14件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファッション : 5/20 アートクルーズ, 5/21 Think of Fashion トークイベント ・横浜トリエンナーレ : <ul style="list-style-type: none"> ・7月子ども向け鑑賞ポケットガイドを市内全小中学校等の児童・生徒に配付 ・会期中 ヨコハマサイト ・8/17-18 子どもアドベンチャー ・8/20 ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2017 ワークショップ ・8/21, 28, 9/9, 10, 10/9, 14, 15, 22, 29, 11/4, 5 グリーンライトワークショップ ・9/1-5, 13-17 水族館劇場(ヨコハマプログラム) ・9/9 アートクルーズ ・9/10, 24, 10/1 子どものアトリエ子ども向け講座 ・9/16, 17, 10/7, 8 ヨコハマスクリーニング ・10/27 夜間開館スペシャルトーク ・石内 : 2/10 アートクルーズ ・NAP : 3/18 アーティストトーク <p>【達成】 11回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・I期 : 4/28, 5/12, 26, 6/9, 23 ギャラリートーク ・II期 : 12/22, 1/12, 26, 2/9, 11, 23 ギャラリートーク <p>【追加実績】 1件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5/21 菅木志雄 アクティヴェイション

<ul style="list-style-type: none"> ・創作体験を取入れた鑑賞プログラム 	□1回/年	<p>【達成】1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/18, 7/9, 30, 8/6, 11, 20, 27(こども探検隊), 9/10, 10/29, 11/23, 3/25 中高生プログラム
<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校向けプログラム 	□2回/年	<p>【達成】4回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/28, 10/1, 20, 1/26 *8/23 10/1 リハーサル <p>【追加実績】2件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人向け ・9/2, 9, 30, 10/21 視覚に障がいのある人のための作品解説ツアー ・9/16, 23 視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ
<ul style="list-style-type: none"> ・学校連携 ・教師向け鑑賞ガイド(ウェブダウンロード) 	□1回/年	<p>【達成】1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5/27, 6/24, 12/9 ・3/15 ウェブサイト掲載 *7/29, 8/16, 17, 9/24, 10/1, 28, 1/20 グループワーク *1/31&1/31-2/5 2校の公開授業で活用
<ul style="list-style-type: none"> ・アートティチャーズデー 	□3回/年	<p>【達成】3回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5/13, 9/23, 12/16 <p>【追加実績】4件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/23, 27&29, 7/3, 5 横浜市芸術文化プラットフォーム ・9/27, 10/25 市中学校, 小学校教育研究会 美術科部会研修(プラットフォーム) ・8/29 国立音大博物館課程授業 ・教師向け研修 5回
<ul style="list-style-type: none"> ●ボランティアによるトーク：個人および外国人向け [再掲：外国人向け] 	□各々1回以上/年	<p>【達成】各々1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人向け：横浜トリエンナーレ 8/23 以降会期中 3会場で定期的・随時トーク ・外国人向け：横浜トリエンナーレ 9/19 以降会期中 随時実施 <p>【追加実績】3件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人団体向け：横浜トリエンナーレ 10/10 以降会期中 随時実施 ・団体向け：横浜トリエンナーレ会期中 事前ガイダンス随時実施 (ふれあいコ

		ンサート含む) ・子どものアトリエフリーゾーン参加者 向け：横浜トリエンナーレ 8/20 以降会 期中随時実施（*同日および 11/5 にも んきりワークショップを実施）
--	--	---

(2) 教育プログラム：子どものアトリエ

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>発信力の強化に資する事業として、多様で魅力的な事業を実践し、開館当初から横浜美術館の特徴としてきた子ども向けの創造支援事業を継承することで、子どもの自立を支援するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下記を引き続き実施します。なお、鑑賞教育の活動が軌道にのってきた状況を鑑み、子どものアトリエは、創造支援活動中心とし、専門性をより深めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校のためのプログラム：学校連携、鑑賞を組込み、展覧会の内容や鑑賞ポイントを教師に伝えるレクチャーの開催、教師向けのワークショップ開催 ・個人を対象にしたプログラム：造形活動、鑑賞活動 ・市、学校、地域施設、企業、NPO 法人、ボランティア等との連携 ・新たに、第Ⅲ期に向け、外部連携による事業展開を検討します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものアトリエでは、中期Ⅲ期に向けて、学校のためのプログラムおよび個人講座の再編を試行しています。 ・本年度は、非常に厳しい体制でしたが、学校プログラムを維持しつつ、研修を増やしました。この結果、学校のためのプログラムとバランスをとりながら、子どもとより長時間ふれあい影響を与えることができる教師や保育士に向けた専門性の高い研修を増加させ、より高い波及効果を得られたと考えています。 ・個人講座では、ファッションやダンスのアーティスト、神奈川芸術劇場 (KAAT) と連携した 2 講座を実施しました。今後、このような、美術館のアトリエとしての独自性を発揮することができる講座を増やしていきます。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●個人むけ講座や学校向けプログラムなどの通常業務 ●第Ⅲ期に向け、外部連携による事業展開を検討 	<p>[達成指標]</p> <p>□利用者数 25,000 人/年</p> <p>■Ⅲ期の学校のためのプログラムおよび個人講座の再編にむけて以下試行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のためのプログラム <ul style="list-style-type: none"> 学校のためのプログラムと教師・保育士研修のバランスを見直し、より高い波及効果を狙う ・学校プログラム 90 校，研修 4 回 ・個人講座 <ul style="list-style-type: none"> アーティストや外部専門文化機関と連携し、美術館のアトリエとしての独自性を発揮する ・個人講座 20 講座中、アーティスト 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】 25,669 人/年（再掲：研修 10 回）</p> <p>【達成】 実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校プログラム 100 校 (研修 10 回含) ・2 講座

	あるいは外部専門文化機関との連携 2 講座/年	<ul style="list-style-type: none"> ・5/5 ファッション展子ども向け講座 [アーティスト連携] ・6/10 ダンスワークショップ講座[神奈川芸術劇場 (KAAT) ・アーティスト連携]
--	-------------------------	--

(3) 教育プログラム：市民のアトリエ

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>発信力の強化に資する事業として、多様で魅力的な事業を実践し、開館当初から横浜美術館の特徴としてきた一般の市民向けの創造支援事業を深化させることで、市民の創作活動を支援するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下記の実施を強化します。なお、著名アーティストなどとの外部連携による新しい分野の講座を開始します。 <ul style="list-style-type: none"> ・市民の創作活動を支援する事業の実施 ・市、学校、地域施設、企業、NPO 法人、ボランティア等と連携 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民のアトリエでは、展覧会と連携し、美術館ならではの講座の強化を図っています。 ・ファッション展では刺繍、横浜トリエンナーレでは、シュルレアリスム、写真、鉛筆画の講座を実施しました。このうち、写真と鉛筆画は横浜トリエンナーレ出品作家が講師を務めており、アーティスト連携も定着しはじめてきています。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●環境に関する講座や展覧会と連携した講座などの個人向けワークショップに加え、自主的に制作に取り組むオープンスタジオなどの通常業務 ●著名アーティスト連携による新分野講座 ●東京藝術大学映像科連携講座 ●横浜市芸術文化プラットフォームによる学校連携 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □利用者数 5,500 人/年 □2 講座/年 □1 講座/年 □3 回/年 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】5,918 人/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境：5-6 月ハンドジュース&10-11 月ホウキ ・展覧会：5/21 刺繍(ファッション)、8/27 シュルレアリスム&9/18 写真 &10/8 鉛筆画 (横浜トリエンナーレ) <p>【達成】2 講座/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/18 写真 ・10/8 鉛筆画 <p>【達成】1 講座/年 (再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/18 写真 <p>【達成】4 回/年 (再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞教育で実施

(4) 市民協働：ボランティア等

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>市民とつながるプログラムの強化に資する事業、多彩な市民力を取り込む美術館活動の強化 (コレクションに関する教育普及)、ビジターサービス機能への市民の力の活用として、美術館を市民に開き、市民が多面的に美術館とアクセスでき、新しい価値観を享受でき、愛着と誇りをもつことができる環境をつくるため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものアトリエ運営ボランティア、美術情報センターボランティア育成を、引き続き実施します。
--

<ul style="list-style-type: none"> ・コレクション展でのギャラリートークや鑑賞会における展覧会鑑賞パートナーの育成を強化します。 ・ビジターサービスにおける市民およびNPO 法人との協働を強化します。 ・新たに、市民との協働については、外国人、障がい者、観光案内へのきめ細やかな対応を行うビジターサービス・ボランティアの推進を検討します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分野で目標を上回るボランティアの方にご参加いただき、市民の力を活用しています。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子どものアトリエボランティア ●美術情報センターボランティア ●鑑賞ボランティア ●その他 ●ビジターサービス <ul style="list-style-type: none"> ・横浜シティガイド協会等と連携した活動 ・外国人、障がい者、観光案内へのきめ細やかな対応を行うビジターサービス・ボランティアの推進検討 ●「原三溪市民研究会」等と共同研究会実施 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □20 人/年 □5 人/年 □100 人/年 □2 回/年 □10 人/年 □1 回/月 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】 4/1-3/31 31 人/年</p> <p>【達成】 3/7 9 人/年</p> <p>【達成】 ヨコトリトーカー107 人(うち当館トーカー42 人)</p> <p>*参考)当館トーカーH28.3-H30.3 65 人</p> <p>【追加実績】 1 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8/7-9/12 グリーンライトワークショップボランティア <p>【達成】 2 回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3/9-10 NPO によるボランティア研修 <p>【達成】 4/1-3/31 14 人/年</p> <p>【達成】 1 回/月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4, 9, 11 月除く毎月 研究会(7 月館外) ・ 4/8 箱根小田原ツアー ・ 9/9 本牧ツアー ・ 11/11 シンポジウム

(5) 市民協働：コレクション・フレンズ

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>市民とつながるプログラムの強化に資する事業として、美術館活動を支える市民のプラットフォームづくりを実現するため、収蔵作品の保全、展示のための資金をサポートする市民を募る「横浜美術館コレクション・フレンズ」を継続発展させ、強化します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フレンズ参加者数は確実に徐々に増えており、当館の理解者、支援者が広がっています。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●参加者数の拡大 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □180 口 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】 204 口</p>

●メンバーシップの多様化と プロモーション策検討	■多様化 平成28年4月以降継続 プロモーション 1月実施	【達成】実施 ・H28.4以降 上位階層メンバーシップ 継続 ・12月 次年度プロモーション
-----------------------------	----------------------------------	---

(6) 市民協働：各種社会貢献事業

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>市民とつながるプログラムの強化に資する事業として、各種社会貢献事業を実施し、高齢者など様々な人々が、お互いを尊重して生き生きと暮らせる社会の形成に寄与するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市、学校、関連機関、NPO 法人、市民との協働を充実させ、強化します。 ・美術館におけるエデュケーション事業の「美術館アクセス・鑑賞サポート事業」「学校教育連携事業」「環境啓発事業」を実施し、強化します。 ・障がい者向け、学校向け、環境等の講座については、「教育プログラム」として実施し、「市民協働：各種社会貢献事業」においては、美術館に来館できない方に向けたアウトリーチを強化するとともに、美術に関わる人材を育成する人材育成事業を中心に行います。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチでは、従来の病院に加え、新たな病院と連携を開始しました。高齢者施設でのアウトリーチでは、実施回数を増やし、音など五感を刺激する内容に発展させています。また、従来より引き続き、市内の若者自立支援組織と連携し、アウトリーチと当館でのワークショップを実施しています。 		
<p>[取組内容]</p> <p>●アウトリーチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院等 ・福祉施設 ・高齢者施設 <p>●人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館実習 	<p>[達成指標]</p> <p>□2回/年</p> <p>□1回/年</p> <p>□1回/年</p> <p>□H30実施に向けて準備</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】3回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/18 横浜医療福祉センター港南 ・9/6 横浜市立大学附属病院 ・10/5 HTA 神奈川県こども医療センター <p>【追加実績】1件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/30, 11/24HTA 保育園 <p>【達成】2回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/29, 30 K2 インターナショナル <p>※10/3, 14, 2/7 当館内ワークショップ実施</p> <p>【達成】2回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5/18, 1/23 戸部ハマノ園[横浜国立大学連携] <p>※前段として5/10, 1/16 横浜国立大学と当館で研修</p> <p>【達成】実施</p>

<p>・子どものアトリエ インター ンシップ</p>	□5人/年	<p>【達成】14人/年</p> <p>・4/1-3/31 6人/年</p> <p>・8/6-9, 8/20-23 8人/年[城西国際大学]</p> <p>【追加実績】1件</p> <p>・2/26-1/31 教育プロジェクトインター ン3人</p>
<p>・教師のためのワークショップ</p>	□2回/年	<p>【達成】2回/年(再掲)</p> <p>・子どものアトリエで実施</p>

6 施設の運営に関する計画

◇政策目標『お客様目線とおもてなしの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行います』

(1) 来館者サービスの充実

<p>[取組内容]</p> <p>●四つの基本方針(*)に従った 来館者サービス業務</p> <p>*1)顧客サービス員の質向上</p> <p>2)顧客サービス員および市 民協働の特性を活かし、 より多様な来館者へのき め細やかな対応実現</p> <p>3)多言語で、高齢者等にも 見やすいパンフレット等</p> <p>4)グランドギャラリーでの 季節感のあるおもてな し、プロモーション</p>	<p>【指標】</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】実施</p> <p>1) 委託会社契約に質向上に関する項 目追加継続</p> <p>2) 多様な方々が来館しやすくなる施 策を実施</p> <p>・団体：23団体に事前レクチャー提供 (横浜トリエンナーレはボランティ アトークとして実施)</p> <p>・観光客等：5/11 第56回国際粒子線治 療共同グループ (PTCOG)年 次大会ガラ・ディナー</p> <p>・近隣就業者：</p> <p>・マークイズ 4/11, 5/9, 6/13, 7/11, 8/8, 9/12, 10/10, 11/14, 12/12, 1/9, 2/13, 3/13</p> <p>・MMCC 5/17</p> <p>・かもめスクール 9/8</p> <p>・夜間開館 5/17, 10/27-28, 11/2-4, 3/3</p> <p>・街コン 9/17, 2/23</p> <p>3) パンフレット等整備</p> <p>・7月 WiFi 拡充</p> <p>4) 植物、ソファ設置開始</p> <p>・11/17-3/4 カフェイルミネーション</p> <p>・1/5-7 門松</p> <p>・1/5 お正月装花</p>
--	-------------	---

<p>●第Ⅲ期に向け、さらなるお客様の高い満足度をめざした具体的な取組みを検討</p>	<p>□展覧会来館者アンケート「スタッフの対応」評点 4.00 以上</p> <p>□展覧会来館者アンケート「使い勝手のよさ、清潔さ」評点 4.30 以上</p> <p>□政策経営協議会で検討 1回/年</p>	<p>【達成】 4.25</p> <p>【達成】 4.52</p> <p>【達成】 1回/年</p> <p>・大規模改修中のサイン・パンフレット・新情報機器・ソファ等更新</p> <p>9月 実施事項、予算およびスケジュール確定</p> <p>10/23 政策経営協議会で報告</p>
---	---	--

(2) ショップやカフェの付加価値の向上

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●ショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コレクションを活用したオリジナル商品 ・企画展関連商品コーナー 	<p>□1 商品/年</p> <p>□1 回/企画展</p>	<p>【達成】 1 商品/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月 コレクション写真葉書制作：新作4作品 <p>【達成】 1 回/企画展</p>
<p>●カフェ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コレクションを活用したオリジナルメニュー ・企画展関連メニュー 	<p>□1 商品/年</p> <p>□1 商品/企画展</p>	<p>【達成】 1 商品/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月 <p>【達成】 2～3 商品/企画展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファッション：2 商品 ・横浜トリエンナーレ：3 商品 ・石内：2 商品

◇政策目標『財政基盤を強化し、効率的で持続可能な運営を実現します』

(1) 適正な施設管理

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●大規模改修</p> <p>●日々の適正な施設管理</p> <p>●災害対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルの最新化と共有 ・訓練 	<p>■大規模改修の実施にむけ市と協働</p> <p>□安全管理事故 0件/年</p> <p>□1 回/年</p> <p>□2 回/年</p>	<p>【達成】 実施</p> <p>【達成】 0 件/年</p> <p>【達成】 1 回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5/12 <p>【達成】 2 回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8/29, 2/27
<p>●開館30周年事業を検討する。</p>	<p>■H28 の案に基づき以下準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施年の H31 に向け、体制・事業・財源の確定 	<p>【達成】 実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月財源確定、10月体制・事業確定

(2) 経営基盤の強化

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●ファンドレイジング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度に始動した法人協賛制度支援者拡大 ・企業との関係構築にむけた継続的な営業活動 ・第Ⅲ期にむけた、新たなファンドレイズを検討 	<p>□2 社増/年</p> <p>□10 社/年</p> <p>■Ⅲ期にむけて以下試行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄付または支援付グッズ制作 	<p>【未達成】1 社増/年（目標 6 社、実績 5 社）</p> <p>【達成】19 社 /年</p> <p>【達成】実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H31 の 30 周年にむけた個人向け寄付の準備として、H30. 11 に他館調査や財団内規程調査などを実施 <p>【追加実績】2 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/25-26 SUV 展示会 ・12/15-16 オートカラーアワード

(3) 人材強化

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●国際グループの新配置</p> <p>●学芸員、エデュケーター育成を再構築</p>	<p>■平成 28 年 4 月実施済</p> <p>■学芸員、エデュケーターの求める人材像を定め、人材育成に活用</p>	<p>【達成】実施</p> <p>【達成】実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財団スケジュールに従い実施

7 その他：政策協働

◇政策目標『政策協働による指定管理を推進し、横浜市の専門文化施設として最適な管理運営を実現します』

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●市の政策と事業の相互連携</p> <p>●進捗状況報告</p> <p>●外部意見の取入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部有識者を交えた教育普及企画運営会議 <p>●年報発行</p>	<p>□政策経営協議会 4 回/年</p> <p>□1 回/年</p> <p>□1 回/年</p>	<p>【達成】4 回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5/22, 6/19, 10/23, 1/15 ※6/23, 8/12, 21, 9/13, 10/27, 1/12, 23 外部評価委員の視察対応 <p>【達成】1 回/年 (10/23 半期振り返り報告)</p> <p>【達成】1 回/年 (3/3 教育普及事業会議)</p> <p>【達成】1 回/年 (6/30 発行)</p>

8 人員配置

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
過去の実績を踏まえ、高い専門性を発揮できる組織として、事	<p>□計 46 人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館長 1 人 	<p>□計 48 人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館長 1 人

業展開と施設の安全安心な運営を強化	・副館長 1人	・副館長 2人
	・グループ長 4人	・グループ長 5人
	・担当グループ長 2人	・担当グループ長 2人
	・チームリーダー 9人	・チームリーダー 6人
	・担当リーダー・職員 29人	・担当リーダー・職員 32人

9 留意事項

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●保険及び損害賠償の取扱い ●法令の遵守と個人情報保護 ●情報公開への積極的取組 ●市及び関係機関等との連絡調整 ●その他 <ol style="list-style-type: none"> 1) 許認可及び届出等 2) 施設の目的外使用 3) 人権の尊重 4) 近隣対策 5) 重要書類の管理 6) 行政機関が策定する基準等の遵守 7) 法令の制定及び改正への対応 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■業務の基準に基づいた適正な取扱い ■コンプライアンス窓口を設置し対応 □個人情報保護研修 1回/年 ■財団事務局に情報公開窓口を設置し対応 ■横浜市や関連機関との連絡緊密化 ■法令・条例・規程等に基づいた適正な管理実施 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> 【達成】実施 【達成】実施 ・財団にて設置済 【達成】1回/年 ・2月 全職員実施 【達成】実施 【達成】実施 【達成】実施
--	---	--

平成29年度「横浜美術館」収支予算書及び報告書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	759,971,000		759,971,000	759,971,000	0	
利用料金収入	63,753,000		63,753,000	66,761,951	△ 3,008,951	コレクション展観覧料収入を含む
自主事業（指定管理料充当の自主事業）収入	0		0	0	0	
自主事業収入	143,368,000		143,368,000	149,358,081	△ 5,990,081	
雑入	63,530,000	0	63,530,000	64,622,450	△ 1,092,450	
印刷代	0		0	0	0	
自動販売機手数料	630,000		630,000	1,022,713	△ 392,713	
駐車場利用料収入	0	0	0	0	0	
その他（店舗、喫茶、寄付金）	62,900,000		62,900,000	63,599,737	△ 699,737	
収入合計	1,030,622,000	0	1,030,622,000	1,040,713,482	△ 10,091,482	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	371,564,000	0	371,564,000	366,706,267	4,857,733	
給与・賞金	303,932,000		303,932,000	305,791,616	△ 1,859,616	
社会保険料	43,421,000		43,421,000	43,329,595	91,405	
通勤手当	6,436,000		6,436,000	6,392,658	43,342	
健康診断費	248,000		248,000	209,888	38,132	
勤労者福祉共済掛金	264,000		264,000	365,208	△ 101,208	
退職給付引当金繰入額	17,263,000		17,263,000	10,617,322	6,645,678	
事務費	7,238,000	0	7,238,000	17,811,624	△ 10,573,624	
旅費	145,000		145,000	125,504	19,496	
消耗品費	861,000		861,000	926,642	△ 65,642	
会議ठीい費	0		0	0	0	
印刷製本費	691,000		691,000	208,336	482,664	
通信費	1,964,000		1,964,000	1,893,407	70,593	
使用料及び賃借料	1,329,000	0	1,329,000	1,433,544	△ 104,544	
横浜市への支払分	149,000		149,000	160,704	△ 11,704	
その他	1,180,000		1,180,000	1,272,840	△ 92,840	
備品購入費	41,000		41,000	10,664,622	△ 10,623,622	
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	145,000		145,000	211,541	△ 66,541	
職員等研修費	0		0	72,730	△ 72,730	
振込手数料	500,000		500,000	810,523	△ 310,523	
リース料	0		0	0	0	
手数料	650,000		650,000	564,775	85,225	
地域協力費	912,000		912,000	900,000	12,000	
事業費	272,422,000	0	272,422,000	243,384,832	29,037,168	
自主事業（指定管理料充当の自主事業）費	0		0	0	0	
自主事業費	272,422,000		272,422,000	243,384,832	29,037,168	コレクション展を含む
管理費	212,333,000	0	212,333,000	215,712,202	△ 3,379,202	
光熱水費	74,902,000	0	74,902,000	68,880,190	6,021,810	
電気料金	70,028,000		70,028,000	66,007,919	4,020,081	
ガス料金	50,000		50,000	40,528	9,472	
水道料金	4,824,000		4,824,000	2,831,743	1,992,257	
清掃費	25,954,000		25,954,000	24,586,299	1,367,701	
修繕費	4,442,000		4,442,000	11,715,079	△ 7,273,079	
機械整備費	6,334,000		6,334,000	6,333,744	256	
設備保全費	100,701,000	0	100,701,000	104,196,890	△ 3,495,890	
空調衛生設備保守	10,854,000		10,854,000	10,716,600	137,400	
消防設備保守	1,890,000		1,890,000	2,041,200	△ 151,200	
電気設備保守	980,000		980,000	977,400	2,600	
害虫駆除清掃保守	0		0	0	0	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	86,977,000		86,977,000	90,461,690	△ 3,484,690	
共益費	0		0	0	0	
公租公課	29,646,000	0	29,646,000	30,536,297	△ 890,297	
事業所税	0		0	0	0	
消費税	29,620,000		29,620,000	30,466,400	△ 846,400	
印紙税	26,000		26,000	54,050	△ 28,050	
その他（法人税）	0		0	15,847	△ 15,847	
事務経費（計算根拠を説明欄に記載）	137,419,000	0	137,419,000	150,084,623	△ 12,665,623	
本部分	72,291,000		72,291,000	72,291,000	0	
当該施設分	65,128,000		65,128,000	77,793,623	△ 12,665,623	ミュージアムショップ運営、基幹ネットワーク保守、施設費出他
二一又対応費	0		0	0	0	
支出合計	1,030,622,000	0	1,030,622,000	1,024,235,845	6,386,155	
差引	0	0	0	16,477,637	△ 16,477,637	財団職員の人事異動により、予算より4,943,000円職員人件費が減少している分を含んでいる。そのため施設運営の実質的な収支差額は、11,534,637円となる。

自主事業費収入				149,358,081		
自主事業費支出				243,384,832		
自主事業収支				△ 94,026,751		
管理許可・目的外使用許可収入				1,022,713		
管理許可・目的外使用許可支出				160,704		
管理許可・目的外使用許可収支				862,009		